



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要					
建物名称	タナシ電機株式会社 物流倉庫	BEE	0.8	BEEランク	B-
				★★	

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.8	/5		がんばろう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		2.8			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)							
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ③ブラインドによるグレア対策。 ④空調・給排水配管の更新必要間隔は20年以上となる配管を使用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内既存大景木の建物周り再配置により外構緑地指数25%以上を確保した。 ⑥緑地外周に緑が連続するような外構植栽がある。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨LED照明の採用。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪水栓は節水コマ付き。 ⑫再生クラッシャー等躯体材料以外でリサイクル材を使用。 ⑬有害物質を含まない材料を使用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮見付面積比が44%より風下の地域に配慮。 	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
			3.2	3.2.1	③	昼光制御	
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
		Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出	
			3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上	
		LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
			2		⑧	自然エネルギー利用	
			3		⑨	設備システムの高効率化	
			4	4.1	⑩	モニタリング	
				4.2	⑩	運用管理体制	
		LR-2	1	1.1	⑪	節水	
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
			2	2.1	⑫	材料使用量の削減	
				2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
				2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
				2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
			3	3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用	
				3.2	3.2.1	⑬	消火剤
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
		LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮	
			2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点		2.8			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯建築基準法に定められた耐震性を有する。 	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
				2.1.2	⑯	免震・制振性能	
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰	電気設備	
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点		3.5			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲階段をゆとりをもたせ空間の自由度と配管等の更新性に考慮。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑲	階段のゆとり	
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
		Q-3	3	3.1	⑳	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点		2.7			
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒緑地の緑が連続するような外構植栽を配置。 ■敷地外環境対策 (㉓持続可能な森林から産出された木材/㉔温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ㉔主風向に対する見付面積比を44%以下とした。 	Q-3	1		⑳	生物環境の保全と創出		
		2		㉑	まちなみ景観への配慮		
		3	3.2	⑳	敷地内温熱環境の向上		
	LR-2	2	2.5	⑳	持続可能な森林から産出された木材		
	LR-3	2	2.2	㉔	温熱環境悪化の改善		

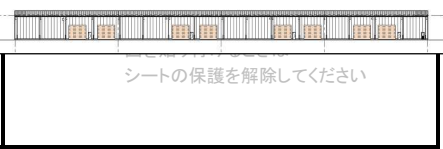
CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2021年SDGs対応版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	タナシン電機株式会社物流倉庫	階数	地上1F
建設地	静岡県駿東郡小山町棚頭	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域の指定無	平均居住人員	10 人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,968 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2024年3月14日
敷地面積	46,766 m ²	作成者	甘利未来
建築面積	6,600 m ²	確認日	
延床面積	7,200 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。		その他 特になし
Q1 室内環境 倉庫に換気扇を設置し、保管品に影響が出ないように配慮した。 事務室は外壁周りに断熱材を施し空調負荷低減を図り、窓を設け昼光を利用した。	Q2 サービス性能 倉庫機能を重視した使いやすさを考慮し、屋根・外壁は耐候性が高い材料を使用。	Q3 室外環境(敷地内) 工業団地内に配置し、敷地内で15%以上の緑地を設けてある。
LR1 エネルギー LED照明器具を採用し省エネルギーを図る。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の利用により節水を図っている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐ。	LR3 敷地外環境 特になし

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される